

# 福岡市データ活用推進計画

## 1. 策定の趣旨・目的

- IoTやAI、ビッグデータなどの先端技術が急速に身近なものとなりつつある一方で、行政のデータが有効利用されていない状況。
- 将来の人口減少・労働力不足などの社会課題や地域の諸課題を解決するために、IoTやAI、ビッグデータなどを活用し、持続可能な市政を支える基盤とすることが必要。
- 誰もが便利で快適な「Society 5.0（超スマート社会）」を実感できることを目指し、基本的な方針と具体的な取組を計画として定める。

## 4. 個別施策

市民の 利便性の 向上	(1)行政手続きのオンライン化	電子申請可能手続きの拡充、ハンコレス、添付書類の省略・デジタル化
	(2) AIなどのICTを活用した市民サービス	AIチャットボット、区役所窓口でのICT利活用手数料・公共施設利用料のキャッシュレス決済
	(3)超高齢社会に向けたICTなどの利活用	ケア分野のスタートアップ支援、ICTの活用による地域ニーズの見える化
	(4)ユニバーサル都市・福岡の実現	バリアフリー情報の発信、多言語による情報発信
	(5)安全・安心を支えるサービス	河川などインフラ監視強化、子どもの見守り、防災・防犯情報の発信
	(6)観光分野でのデータ活用	ビッグデータとAIを活用した観光案内の提供と多言語化
	(7)様々な分野でのICT利活用	人流分析による都市交通の快適性向上、ICTを活用した土木工事、農林水産業のスマート化

## 2. 計画期間

- 計画期間は、**2019年度から2022年度までの4年間**
- 計画策定から2年経過した時点で、必要に応じて2021年度以降の計画を見直す。

## 3. 3つの視点

- 市民や企業との共働により多様なニーズをつかむ ～共働によるサービスデザイン
- デジタル化、オンライン化を原則とする ～デジタルファーストの徹底で、ノンストップな手続き
- 実験的な取組にチャレンジする ～まず試作をして実証してみる

### 取組のイメージ



行政事務の 効率化・ 高度化	(1) IoT, AI等を活用した行政事務の効率化	IoTを活用したインフラの維持管理、RPAの活用による業務効率化
	(2) データを活用した政策立案	市職員へのデータ活用研修、保健福祉分野でのEBPM

データ活用 のための 環境整備	(1) オープンデータの推進	オープンデータの充実、データ活用事例の創出、広域連携
	(2) 民間と連携したデータ活用の推進	公民連携窓口mirai@、AIコミュニティ、実証実験フルサポート事業
	(3) 市民との共働によるデータ活用の推進	市民向けイベントの実施、市民団体との連携
	(4) 人材の育成	市職員へのデータ活用研修、エンジニアフレンドリーシティの推進

## 5. 計画の推進に当たって

推進体制	「情報化推進会議」の下に、福岡市のデータの活用を推進するための部署横断的な議論を行う場として「 <b>官民データ活用推進委員会</b> 」を設置し、情報部門が事務局として進行管理を行う。
セキュリティ 個人情報の 保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>サイバーセキュリティに係る法律や条例に基づく適切な情報システムの運用体制を確保するとともに内部監査、外部監査を毎年実施し、情報システムごとのリスクの評価、管理体制のチェックを行う。</li> <li>市民の個人情報の保護の観点から、関係法令や条例に基づく安全管理措置を徹底する。</li> </ul>